



ふきのとう 文庫だより

昭和48年1月13日第三種郵便物承認
HSK 通巻番号636号

発行 令和7年3月10日
毎月10日発行 定価100円
(維持会費に含む)

編集 〒060-0006
札幌市中央区北6条西12丁目8番3
公益財団法人ふきのとう文庫
電話 (011) 222-4839
FAX (011) 222-4800

発行人 北海道障害者団体定期刊行物協会
細川久美子

クロントイ図書館訪問記——冊の本が子どもたちの未来を拓く

公益財団法人ふきのとう文庫 評議員 福田 都代

タイのバンコク滞在中の二〇二五年一月三日にクロントイ図書館を見学してきました。クロントイ地区は、バンコクの中心部近くにありながら、経済的に困窮する住民の居住圏となっています。およそ十万人の人々がここで暮らしています。

クロントイ図書館は、日本のシャンティ国際ボランティア会（SVA）の支援によって、二〇一四年に設立されました。SVAは一九八〇年にインドシナ難民の支援を目的として発足したNGOで、東南アジア（タイ、ラオス、ミャンマー、カンボジア）とアフガニスタンにおいて、学校建設など教育支援と読書推進活動に貢献しています。SVAは一九八五年からバンコクのクロントイ地区で図書館支援活動を手がけてきました。現在、クロントイ図書館は、現地のシーカー・アジア財団（一九九一年発足）に運営を任されています。この財団は、SVAの支援によって設立された現地法人です。

図書館は二階建ての建物の一階にあり、図書室、パソコンを装備した学習室やホールがありました。二階には事務局と、地域の女性達が作業をする場所になっています。彼女たちは、ミシンでトートバッグを作ったり、小物を製作・販売しています。

図書館の近くには学校もあり、地域の子ども達が放課後、気楽に立ち寄れる場所となっています。図書館内では本を読むだけでなく、友達と宿題に取り組んだり、タイの踊りを練習したり、ボードゲームをしたりと、自由に安全に過ごせる場所になっています。

図書館は女性三名で運営されており、一人はカンボジアからの難民です。移動図書館を一台保有し、絵本を積載して地域を巡回しています。移動図書館に搭載された絵本には、タイ語とミャンマー語に翻訳した透明シールが貼られていました。近年、この地区にはタ

イ人だけでなく、ミャンマー人も多く暮らすようになったからです。ちょうど、私の訪問時にはクロントイ地区の生活向上に四十年にわたり、貢献してきた秦辰也さんにお会いできました。秦さんの著書「アジア発ボランティア日記」を読んでいたもので、とても幸運でした。秦さんはSVAの副会長として、日本とタイを拠点に行き来しており、普段はめったに会える機会がないのです。

私は英語と日本語の二カ国表示の絵本を三冊持参し、たまたま持っていたふきのとうの布の絵本「なかみはなあに」も一冊進呈しました。持参した絵本のうち、スタッフの方々が「わにわにのごちそう」をととても喜んでくれました。タイの人たちにとって、ワニと象はとても身近な動物です。スタッフから、毎年一月の第二土曜日はタイの「子どもの日」にあたり、読み聞かせなどのイベントを計画していると伺ったので、持参した絵本を使っていたかもしれません。

(次ページに続く)



帰りに気になる話を耳にしました。タイはめまぐるしい経済発展を遂げています。シンガポールの企業が住民を立ち退かせて、クロントイ地区の再開発を狙っているようです。十万人もの人々をどこへ移住させられるのか、彼らのこれからの生活基盤はどうなっていくのか。東南アジアはまだ社会保障や福祉制度が整っていない国々が多くありますので、弱者切り捨てにならないことを願っています。

訪問中、図書館の館内に様々な記事が貼ってあるのを目にしました。とりわけ、図書館の利用者だった女性の記事に着目しました。彼女はこの図書館の本をほとんど全て読み、奨学金を得て高等教育を受け、タイの外務省でロシア語通訳となつて活躍しています。SVAは「一冊の本から希望を見出し、自らの未来を切り拓いてほしい」という活動目的を掲げています。この女性のように、多くの子ども達が図書館の本を通じて、明るい将来が拓けるような社会を実現してほしいです。

最後に、この場をお借りして、北海学園大学経済学部と同僚である宮島良明先生に深く感謝申し上げます。先生の案内で、タクシーも入っていないような地域に導いていただき、クロントイ図書館への訪問が実現できました。

プロフィール

- ・一九八一年 慶応義塾大学文学研究科図書館情報学専攻 修士課程修了
- ・一九八二～一九八七年 国際連合教育科学文化機関（ユネスコ）教育セクター所属ライブラリアンとして、中南米・カリブ海諸国における高等教育機関（CRESATC）在ベネズエラ・カラカス市）と国際教育局（IBE）在スイス・ジュネーブ市）に勤務
- ・一九八九年四月～一九九八年三月まで 北海道情報大学経営情報学部教員
- ・一九九八年四月～二〇二四年三月 北海学園大学図書館学課程 教員

代表理事 高倉のたわ言

「ふきのとう文庫」との「馴れ初め」

一、よく質問されること

来客との対応は代表理事の大切な役割で、これまでも多くの視察・見学の方々とお会いしましたが、そこで組織としての活動の他に私個人の私的な質問をいただきます。

そうした中で最も多い質問が、私と「ふきのとう文庫」との出会いについてです。

これまでもおりに触れて部分的にはお話ししてきましたが、ここでより全体的に書かせていただきます。

二、私の専門研究分野

私は大学で教育学の一領域である社会教育の研究教育に当ってまいりました。あまりおなじみない分野ですが、学校教育以外にはなんでもありの非常に広いテーマを持っています（北海道の教育学研究者の中では大変少数）。

特にその中でも社会教育施設行政に関心を寄せ（助教授昇進論文は社会教育施設論）、その代表的な施設である図書館も有力な研究対象でした。

三、「ふきのとう子ども図書館」を知る

日本が「先進国」の仲間入りした後、図書館は欧米と比較すると全く貧困であり、大都市札幌も正式な図書館は道立図書館以外、今の時計台に札幌市立図書館が一つあるだけの時代が長い間ありました。

一九七二年、札幌が政令指定都市になって「一区一館」の図書館設置が進められ、その型が出来て来た頃の一九八二年、札幌に私立の図書館が開館されたと聞いて、札幌にそんな力があつたのか？と大変驚いた次第です。

後から見れば、当時既に十年以上の活動歴を持っていた「ふきのとう文庫」は、私としては当時キャッチしていなければならなかったのでしょう。

うが、公的な社会教育施設にばかりに目を向けていたせいで、恥ずかしながら図書館として建てられて初めて存在を知ったのです。

当然私は札幌市内及び近隣のいくつかの大学で、社会教育主事、司書、学芸員の養成コースの非常勤講師を務めており、早速それらのコースを選択していた学生の一部を伴って見学に出かけました。

四、「ふきのとう子ども図書館」を見て

小林静江理事長とはその時、初めてお会いしました。今から考えれば「運命の出会い」と申せましょう。

私がこれまで頭に入力された「金太郎館」的な図書館とは全く異なる図書館がそこにはありました（金太郎館的図書館が良くないと言っているわけではありません）。

一般の子ども図書・大型本・紙芝居等に加えて布の本・遊具や拡大写本が多数所蔵され、蔵書内容が大変多様であり、又それらを使って子ども達が遊ぶ空間もあること、それが、全部多数のボランティアによって運営されていること、図書館内に工房が置かれて、布の本、拡大写本を製作する腕のいいボランティアがそこでそれらを手づくりしていること、更に私立である故に公的補助は受けれられない（図書館法の規制条項による）中で、「赤い羽根」共同募金を中心とする民間の助成以外、賛助費、寄附金、それに加えて布の本・遊具の販売収入等により、経済的に自立した活動が為されていることがわかったからです。これこそが有り得べき社会教育施設の一つと思われ、大変感銘を受けました。

五、札幌が生み出した文化

しかも小林静江（東京の出身）は、札幌で昔展開された新渡戸稲造の「札幌遠友夜学校」と関連づけて「ふきのとう文庫」を捉えていました。これぞまさに札幌が生み出した貴重な文化であり、それを微力ながら広めて行こうと思ったのです。

子供達とのふれあいを通して

図書ボランティア（日曜） 松田佐江子

二〇一九年一月、図書ボランティアとして活動してから今年で丸六年。この間コロナ禍で休館した期間がありましたが、よく続いたものだとしても驚くばかりです。そんな私を支えてくれたのは、子ども達の笑顔とボランティア仲間の皆さんです。A君は小学校高学年、毎週のように来館しているのですが、誰よりも文庫の事を知っていて、私が返却本の棚を探してうろうろしていると、「ここだよ」と教えてくれます。閉館近づくと本を読んでいるその集中力に驚かされます。そのA君も中学生になり、文庫に来る事が少なくなりました。保育園の年中さんだったE君は今年小学校に入學です。玄関で大きな声で「こんにちわ」と必ず挨拶してくれます。お手紙を何回も書いてくれ私の宝物です。当初は「ふかふかの本を見に行く」と言ってお母さんに催促していたそうです。「布の本が大好きなんですよ」とお母さんが教えてくれました。子ども達の本離れに拍車がかからない時代に私達大人が出来る事は何かのではありませんか？小学校の一日体験入學で、図書館を知らない子がいると聞きました。とても残念な事です。赤ちゃんの頃から親が絵本を読み聞かせることは、子供の成長にとっても大きな影響があると言われています。ふきのとう文庫が何時までもそんな居場所である事を切に願います。

ボランティア活動に参加して

図書ボランティア（月曜） 佐藤 郁子

昨年の秋深まる十月、久し振りの緊張感の中、初めてのボランティア先「ふきのとう文庫」に足を踏み入れました。木のぬくもりが温かいその空間は、私にとって新鮮なものでした。木漏れ日の中に響く子ども達の声やその楽しそうな姿、母親の読み聞かせに目を輝かせる女の子、本当に微笑ましい忘れられない光景でした。

慣れない活動でも子ども達は待ったなしで質問してきます。「これは何？」「〇〇はどこにあるの？」など突然の対応に戸惑う私でしたが、先輩たちに助けられて乗り切ることができました。そんなことで初日は終わり、毎週月曜日午後を担当させて頂き現在に至っております。

三ヶ月程過ぎたこの頃は、少しずつ慣れてきたのか、その日の子ども達の様子やその成長がなんとなくですが、わかるようになってきました。パイパイが上手に上がった？前より少し大人っぽくなった？指差しができるようになったかな？そんな姿を見ることが毎回楽しみになってきました。そのことに加えて同じ曜日の方々と本の紹介やちよつとした会話、年末には、忘年会にも参加するなどの楽しみも増えました。

まだまだ未熟者ですが、関係する方々に支えられ継続できていることに本当に感謝しております。おかげで毎回行くのが待ち遠しく今日はどんな子ども達に出会えるのかワクワクしております。私の知らない図書館の世界をもっと知りたくなり、布の本、拡大写本、点字、専門的な図書館司書や認定絵本士の学習、さらには、全国各地での図書館の画期的な活動など興味は広がるばかりです。

以上のようなひよつ子ですが、皆様、今後ともどうか御指導よろしくお願い申し上げます。

子ども図書館は、皆の癒しの場

図書ボランティア（水曜） 久末久美子

月二、三回図書ボランティアをしています。好きな私は、新聞の募集を見て始め、六年が過ぎました。午前中なので、乳幼児とお母さんが多く利用されます。子ども達とお母さんの姿に、いつも元気をもらっています。

入口でお母さんが靴を片づけている間に、一人で先に走って好きな絵本を取りに行く子。這っている子、走り回っている元気な子。「お話し会」が終わり、お母さんとお姉ちゃんが片付けを手伝う姿を追って、自分の小さな椅子を持ち上げ、転

んでも頑張って運ぶ男の子。子ども達を見ていると、それぞれの可愛さに心が癒されます。また、親子が床や椅子の思い思いの場所で、ゆつくりと絵本を見て過ごしたり、時にはお母さん同士、子ども同士、親子同士で仲良くしている姿にほっこりです。

時々利用してくれる保育園の年長さんに、十二月は手作りの「おみくじ箱」が大好評でした。カウンターで「おみくじ箱」を見つけ、四人で何度も棒を引き、「大吉」が出ると大喜びし合い、入っている棒を全部とり出して中身を見たり、本数を数えたりと、いろいろ楽しんでいました。この「癒しの場」である子ども図書館。たくさん飾られた「絵本」や「児童書」などの本と、壁全体に飾られた「布の本」優しさあふれる居心地いい館内。地域の方やたくさんの方々を知って頂き、皆様のご来館を心よりお待ちしております。

ボランティアをはじめて

図書ボランティア（火・日曜） 加藤早百合

ふきのとう文庫でボランティアを始めてから、もう六年になります。

六年前、お母さんに抱っこされて図書館に来ていた赤ちゃんが、今年小学生になるそうです。子どもの成長を間近に見られるのはいいものです。私はといえば、まだまだ学びと発見の連続で、絵本と児童書の世界の奥深さを実感しています。

私は日曜日と火曜日の週二回活動していますが、それぞれの曜日で利用者さんも、仕事の内容も、ボランティアのメンバーも、少しずつ違います。共通しているのは、皆さん本当に本が大好きだということです。

図書館のなかの本、ボランティアの皆さんにすすめられた本、ここで出会った本は、私の前にまだ新しい扉がたくさんあることを教えてくれました。

これから活動を通して、利用者さんが素敵な本に出会えるお手伝いができればいいなと思っています。

四ヶ月期 収支報告

一月までの累計収支はほぼ予算推移で進行中、収入では賛助会費の団体枠を増やすことが今後の課題となり、助成金は増床分が年度末で決済される見込みにある。企業団体による助成金も昨年よりも四〇万プラスにて経過している。

管理費は人件費の最低賃金引上げに伴い+4.0%増で推移している、交通費はクラブスタッフ費用でオーバー傾向と水道光熱費が+10%推移となっている。

(横澤 記)

4～1月期収支報告

(単位：千円)

収入の部	予算	実績	前期	コメント
1. 賛助会員収入	2,200	1,998	1,878	予算推移
2. 寄付金等	2,500	3,352	3,895	高額寄付10月
3. 助成金	59,600	10,014	8,365	予算推移
内増床助成金	50,000	0	0	増床専用費用
4. 事業収入	1,600	1,602	1,835	予算推移
5. 雑収入	0	1	0	
当期収入合計	65,900	17,366	16,274	
支出の部	予算	実績	前期	コメント
1. 管理費	13,127	11,677	11,679	やや超過推移
2. 事業費	2,610	2,349	2,108	予算推移
増床関連費	50,000	0	0	増床専用費用
当期支出合計	65,607	14,026	13,787	
当期収支差引額	予算	実績	前期	コメント
当期収支差引額	293	3,340	2,486	寄付額反映見込み

◆ふきのとう・こどもクラブ

一月のお誕生会 一月二十八日(火)

ふきのとう・こどもクラブでは、毎月、お誕生日会を開催しています。

一月二十八日に行った誕生会では、お正月にちなんでプログラムを企画しました。お誕生のこどもとお祝いする子どもたち二十四名が参加しました。

プログラム①・「十二支」絵本読み聞かせ

まず、「十二支」の絵本を読み聞かせしました。これは、十二支の動物たちがどのようにして現在の順番になったのかを描いた楽しいお話です。子どもたちは興味深そうに耳を傾けていました。

プログラム②・誕生日の歌

次に、お誕生日を迎えたお子さんをお祝いするため、「ハッピーバースデー」の歌をみんなで合唱しました。その後はお待ちかねのケーキタイム。誕生月の子どもから順に、ショートケーキ、チョコレートケーキ、キャラメルミルクレープ、チーズケーキの四種類の中から好きなものを選び、美味しくいただきました。

プログラム③・ゲーム

ゲームでは三人一組のチーム戦を行いました。代表者が順にゲームに挑戦し、獲得した点数で競います。種目は、イラストかるた、英語かるた、福笑いの三つ。特に福笑いでは、目隠しをした代表者にチームメンバーの指示を出しましたが、なかなかうまく伝わらず、完成した顔を見てみんなで大笑いする場面もありました。

このように、毎月、季節にちなんだ楽しいプログラムを企画し、子どもたちの笑顔あふれる時間を大切にしています。



本だな2

業務執行理事 杉山 一夫

今回は森久保仙太郎についてお話をしたいと思います。彼は二〇一八年に一〇一歳で亡くなっていますが、児童文学作家、教育評論家です。偕成社から「絵本の世界 作品案内と入門講座」を著わしています。

小学校教師時代に絵本に出会い、こぐま社の設立に参加し、わかやまけんらと「こぐまちゃん」シリーズの集団制作に携わっています。森久保の名は知らなくとも、ペンネームもありひさが訳したエリック・カールの「はらぺこあおむし」パパお月さまとつて「やがブリエル・バンサン」の「くまのアーネストおじさん」シリーズをご存じの方は多いのではないのでしょうか。ふきのとう文庫の書棚にも「えっ、これもありひさし？」と驚かれる本がきつとあります。



2024年11月以降賛助会費納入一覧

個人(14名)

相原 則子 相原 靖 伊藤 静雄
奥山 慶一 小野 祐子 熊野 清子
信田 澄子 古川 順子 森永美恵子
守部 紀子 藤田 宮子 安藤 淑子
中山 芳子 本吉 春子

団体(2団体)

学童保育所えぞりすクラブ
北海学園大学同窓会

2024年11月以降寄附金納入一覧

個人(12名)

青山 誠 碓井トミ子 奥野 和弘
川波 和芳 田頭 愛 高倉実枝子
竹田 浩之 長野美年子 藤田 宮子
中村テツ子 安藤 淑子 飯村 俊幸

団体(10団体)

PERISSIA
株式会社 偕成社
こくみん共済東北統括本部・専務執行役員 渡邊心護
こくみん共済北海道推進本部・事務局長 佐藤敏行
桜蔭学園生徒会(文化祭企画委員会)
スナック・ミッチー 山下道子
生活クラブ生活協同組合
ふたご座・畠山珠恵
まりん・渡部まりん
ラウンジ「わ」・渡辺俊子

2024年11月以降寄贈一覧

11月15日 童心社 児童書 1冊
11月20日 コアレックス道栄(株) トイレットペーパー・ティッシュペーパー
11月26日 偕成社 絵本 1冊
12月15日 早勢 恵美 布手作り品 多数
12月18日 童心社 児童書 3冊
12月14日 北海道獣医師会 冊子 2冊
2月16日 童心社 児童書 1冊
2月26日 学研 絵本 1冊

行事一覧

11月17日 おはなし会
11月19日 運営会議
11月20日 白ゆり幼稚園 園児46名・引率8名 見学
11月24日 腹話術
12月8日 うたう会
12月15日 おはなし会
12月16日 杉下公認会計士事務所 運営会議
12月17日 杉下公認会計士事務所 運営会議
12月26日 1月4日 年末年始休館
1月5日 開館
1月19日 おはなし会
1月26日 井上美豊子と楽しもう
2月4日 理事会
2月16日 おはなし会
2月23日 評議員会

賛助費、寄附、寄贈で芳名・行事一覧

子どものためのもよおし

予定表

2025 年度上半期

4月13日(日)13時30分～ うたう会
20日(日)13時30分～ おはなし会
5月11日(日)13時30分～ 仁木彩子 ピオラ演奏会
18日(日)13時30分～ おはなし会
25日(日)13時30分～ ヤチシンコス 南米音楽演奏会
6月 8日(日)13時30分～ うたう会
15日(日)13時30分～ おはなし会
7月 6日(日)13時30分～ 福本ゆめ 二胡演奏会
20日(日)13時30分～ おはなし会
27日(日)13時30分～ トトロおじさんバラエティショウ
8月 3日(日)13時30分～ 札幌シンフォニエッタ 演奏会
10日(日)13時30分～ うたう会
17日(日)13時30分～ おはなし会
24日(日)13時30分～ 手づくり遊び
9月 7日(日)13時30分～ 世界の歌と器楽の演奏会
21日(日)13時30分～ おはなし会
28日(日)13時30分～ 人形劇団ひよこ



ふきのとう子ども図書館
TEL 222-4839 FAX 222-4800

子どものためのもよおし

予定表

2025 年度下半期

10月 5日(日)13時30分～ 井上美豊子と楽しもう!
12日(日)13時30分～ アンサンブル・フラテ 演奏会
19日(日)13時30分～ おはなし会
11月 9日(日)13時30分～ うたう会
16日(日)13時30分～ おはなし会
30日(日)13時30分～ 井上美豊子と楽しもう!
12月 7日(日)13時30分～ 福本ゆめ 二胡演奏会
21日(日)13時30分～ おはなし会
1月18日(日)13時30分～ トトロおじさんバラエティショウ
25日(日)13時30分～ おはなし会
2月 8日(日)13時30分～ 手づくり遊び
15日(日)13時30分～ おはなし会
3月 8日(日)13時30分～ うたう会
15日(日)13時30分～ おはなし会
22日(日)13時30分～ 井上美豊子と楽しもう!



ふきのとう子ども図書館
TEL 222-4839 FAX 222-4800

第三の居場所（ふきのとう・いびどもクラブ）新館の工事経過

（令和七年二月十八日現在）

担当理事 大友 健太

①新館の工事報告

昨年九月に着工してから、順調に建築工事が進んでおり、予定通り、二月末までに完成、三月三日に引き渡し予定となっています。

建物引き渡し後に、電話・通信機器の設置、机や椅子、電化製品等の搬入設置を行いますので、新館利用の開始は四月頃からを予定しております。

なお、駐車場の利用開始は五月頃からとなります。

②新館の運営計画

こどもクラブの専有スペースとして活用します。現在、多目的ホールで行っている活動を継続して運営しますので、当面は活動の曜日・時間・スタッフ体制等に大きな変更はありません。



日常の活動に加え、毎月のバースデーイベントや季節の行事イベントなども、今後は新館で実施していきます。

新館と図書館（本館）は渡り廊下（図書館テラス）を介して行き来できますので、静かに読書したり勉強したりしたいときは図書館で自由に過ごすことができます。

また、昨年たいへん好評を博した農園体験など、外部での活動も予算確保の上、継続したいと考えています。

③新館の特徴

新館は木造平屋建て（約87㎡）で、図書館テラスの南側前方に建築され、南側道路に面した専用の玄関があり、テラスと大きなガラス面の開放感のあるファサードになっています。

暖かい季節には、テラスで日光浴したりするなどリラックスする時間を過ごせそうです。

また、図書館テラスと駐車場との間に、小さな庭を残すことができましたので、今後の活動に上手に利用していきたいと考えています。

建物内部には、クラブ活動が行われる活動室（約48㎡）、スタッフの詰め所となる多目的室（約14㎡）、



トイレ、キッチン、手洗い場が設置されています。また、小さな冷蔵庫、オーブンレンジも設置されますので、こどもたちとお菓子作りなどできることを楽しみにしています。

また、床面は木造フローリングで、片側壁面にミラーが設置されますので、今後、ダンスや体操などの活動にも利用していきたいと考えています。

④さいごに

ふきのとう・こどもクラブは、「この拠点をハブとして、誰一人取り残さない地域子育てコミュニティをつくる」ことを第三の居場所拠点のビジョンとして掲げ、「すべての子どもたちが将来の自立に向けて生き抜く力を育む」ことを目的として開設されました。

公益財団法人日本財団の支援を受けて実施していますが、令和七年度から支援が減額し、かつ、支援の最終年度となります。

ふきのとう文庫では、令和八年度からの活動継続とビジョン達成に向けて、新たな国や自治体の支援のほか、民間や個人支援の拡充、地域連携を模索しております。

今後とも、皆様の益々のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



令和七年度の事業及び収支計画について

令和7年度 収支計画

(単位：円)

(1) 収入の部	令5年実績	令6年予算	令7年予算案	増減(%)
1. 賛助会員収入	1,878,300	2,200,000	2,500,000	113.6
2. 寄附金等	4,194,908	2,500,000	3,500,000	140.0
3. 助成金	8,365,200	59,600,000	8,940,000	15.0
4. 事業収入	1,835,304	1,600,000	2,000,000	125.0
5. 雑収入(受け取り手数料)	90	0	0	0.0
当期収入合計	16,273,712	65,900,000	16,940,000	25.7
(2) 支出の部	令5年実績	令6年予算	令7年予算案	増減(%)
1. 管理費 計	11,679,425	13,126,600	13,510,000	102.9
2. 事業費 計	2,107,529	2,610,000	3,430,000	131.4
当期支出合計	13,786,954	65,606,600	16,940,000	25.8
(3) 収 支 差	令5年実績	令6年予算	令7年予算案	増減(%)
当期収入合計	16,273,712	65,900,000	16,940,000	25.7
当期支出合計	13,786,954	65,606,600	16,940,000	25.8
当期収支差引額	2,486,848	293,400	0	0

令和七年度収支計画については、収入の部「賛助会費」「寄付・助成金」を増額としました。運営資金の基礎となる部分での広がりづくりが必要となります。

さらに、こどもクラブ運営においては助成金最終年であり、令和八年度から助成ナシで自走する経営態勢づくりが必須となります。

支出の部では、今年四月から新館運営が開始することから諸経費(水光費・通信費など)が増加し、本館・新館での合理的な運営が必要となります。

事業費が増加しているのは、こどもクラブ事業費(助成分)が増えていることがあり効果的な活動を進めています。

令和七年度 ふきのとう文庫事業計画

令和七年度 事業計画の概要

令和六年度は、過年度からのコロナ禍影響を克服し、活気が戻ってきた。

「第三の居場所」事業の取り組みも二年目となり、余市でのブルーベリー狩り、さつまいも収穫体験、ヒバクシャ会館視察など外へ出る新たな企画を展開し、子ども達から好評を得ることができた。

令和七年度活動の広がり大きな期待が寄せられており、ふきのとう文庫活動五活動へのヨコ広がり、図書活動およびイベント活動への子ども参加増を目指していく。

令和七年度 事業別計画

- 子ども図書館の運営
 - 開架・閉架合わせ図書の整備
 - 未返却本の督促等の継続
 - 来館する親子との交流の継続
 - 布の本の製作
 - 貸し出し用・販売用の布の本・遊具の製作
 - 布の本・遊具の材料セットの製作
 - 病院内への図書コーナーの貸し出し・寄贈
 - ボランティアさんの育成
 - 拡大写本の製作
 - 拡大写本の製作と貸し出し
 - 弱視児童への拡大漢字本製作及び寄贈
 - 拡大写本の視覚支援校及び弱視教室への配本
 - ふきのとう・こどもクラブの活動(詳細別紙)
 - こどもクラブ専用館の活用(増床助成事業)、運営計画立案
 - 遊び・学習・生活支援、食事・おやつ提供(助成金事業)
 - 季節のイベント・体験プログラム(助成金事業)
 - 地域関係機関との連携・PR・寄付金募集
 - スタッフ研修・ボランティア募集
 - 子どもイベント事業
- 恒例の「お話し会」「歌う会」「井上美豊子と楽しもう」(四季で年に四回)「トトロおじさんバラエ

ティーショー」「人形劇」「各種演奏会」「中国伝統楽器の二胡演奏会」「世界の歌と楽器の演奏会」を図書グループの協力を得て推し進めていく

その他

・病院文庫の再開へ向けた調整を進めます
(北大病院・札幌天徳病院・KKR札幌医療センター・おのだ眼科医院・札幌市立病院)

ふきのとう文庫 運営計画

- 賛助会員・支援団体を増やし財政の安定化を目指す
 - ①賛助会員様への継続のお願い、新たな協力者への呼びかけを活動参加の皆様に協力をいただく
 - ②持続可能な活動を支えるために、助成金支援団体を広げていく
- こいぽさつぽろとの提携活動を強化し、子育て支援活動の輪を広げます
 - ①「ふきのとうこどもクラブ」と(新)こいぽさつぽろ「ふきのとうこどもクラブ」のこどもクラブ活動における運営交流をはかります
 - ②「ふきのとう文庫」を広める活動として「トドックステーション」等でのふきのとう文庫活動紹介コーナー展示を企画します
 - ③組織的提携を深めるにあたって、こいぽさつぽろからの役員参加を要請します
- 広報活動
 - ①機関誌の発行として「ふきのとう文庫だより」発行を三回計画します(七月・十一月・三月)
 - ②刷新したHPをより分かりやすく伝わるようにします
 - ③こどもクラブでのSNS発信を多様に進め広がりを目指します
- 活動ボランティアさんの仲間増やし企画を計画し、活動の広がりを進めます
 - 地域関係団体との交流を深めていきます
 - ①地域町内会・ボランティア組織との交流を深め地域一体となった活動を進める
 - ②大学連携等による協働研究・情報交流・学生参加等による活動の活性化をはかる

📖 📖 📖 新しい拡大写本できました。📖 📖 📖

🌸 ふたりはともだち	アーノルド・ローベル	作
🌸 名なしのこねこ	とりごえ まり	作
🌸 てぶくろがいっぱい	フローレンス・スロボドキン	作
🌸 ダンデライオン	ドン・フリーマン	作
🌸 心の森 (全2冊)	小手鞠 るい	作
🌸 掬えば手には (全5冊)	瀬尾 まりこ	作
🌸 かにむかし	木下 順二	作
🌸 だれもしらない小さな家	エリナー クライナー	作
🌸 ロザリンドの庭	エルサ・ベスコス	作



布ボランティアからの寄贈
60年前のおひなさま

STVテレビの取材がありました

二月十九日(水) 朝からTVクルーが来所され取材が行われた。番組は「どさんこウィークエンド」土曜日十一時五十五分から番組であり、ふきのとう文庫の誕生から館内紹介これまでの歩みを高倉理事長へインタビューする形で撮影が行われた。

十時からは「えほん読み聞かせ」会の取材も行った。

北海道で唯一の子ども図書館「ふきのとう文庫」は、私設図書館として全国十九館しか無く、事業内容も、こども図書館とイベント・拡大写本の製作・布の本の製作と第三の居場所には非常に珍しく多様な活動を行うこども図書館なのである。(三月八日放映)

(横澤 記)



あとがき

もうすぐ三月ひな祭りを迎える頃となり、事務所横に飾ったひな人形も毎年の如く子ども達の成長を見守ってくれている。一三五号は今年一月にタイのバンコクにある子ども図書館を視察された福田評議員に寄稿をいただいた。タイにおいて日本からの国際ボランティア会(SVA)の支援により運営されているクロントイ図書館の状況についての報告である。こどもクラブ専用館も三月末には完了する、その進捗と運営についての報告を行った。

(横澤 記)

編集 公益財団法人ふきのとう文庫 代表理事 高倉 嗣 昌

〒060-0006 札幌市中央区北6条西12丁目8番3

☎ 011-222-4839 FAX 011-222-4800

http://www.fukinotou.org

E-mail:fukinotoubunko@ceres.ocn.ne.jp

令和7年3月10日 発行

毎月10日発行 定価100円(維持会費を含む)

昭和48年1月13日 第三種郵便物承認

HSK通巻636号

発行人 北海道障害者団体定期刊行物協会

細川 久美子

郵便振替=02720-3-2300 銀行口座=北洋銀行本店営業部普通預金 0035764 公益財団法人ふきのとう文庫

この機関誌は、“北海道共同募金会の配分”により刊行しています。
維持会員・寄付者のみなさん、ありがとうございました。